

山紫水明





第一四五号 目次

表紙	1
退任挨拶	3
上皇上皇后両陛下御入洛	4
歴代会長会	5
特別講演会・臨時総会・新年会	6
委員会報告	8
近畿・中央報告	12
編集後記	16

退任挨拶

会長 北川真喜子



早いもので生寫前会長の後を受け、会務をお預かりしてより早二年が過ぎ、無事に任期を終える事ができました。

戦後間もない昭和二十六年六月、国家の再建と斯界の発展のため当時の青年神職が立ち上がり、「神道のため、新しい発展の道を求め、そしてこの神の道を永久に守り伝える」ことを使命として当会が創立されました。以来、今期は七十周年という大きな節目を迎えた期でございました。

この二年間を振り返りますと、通常の事業に加え、近畿地区連絡協議会の当番府県として始まり、zoomを活用したオンライン会議や連絡会など、慣れない事に戸惑いもありました。「祈り〜つどう〜ころ〜」を主題に掲げた当会の周年事業では、創立七十周年記念事業実行委員会を中心に一丸となり、二力年をかけて記念事業を企画、実施。常に「コロナ」対策を念頭に置きつつ、青年会として今できることを考え、一つ一つ取り組んでまいりました。思うように活動が出来ず、悔しい顔を見せた役員もおります。しかし歩みを止めることなく進んでこられたのは、常に数多くの方々から戴く暖かい愛情と励ましに支えられたお陰でありました。

日々の社務や生活に追われながらも、ひとつの事業に向かって同じ時間を共有し、そこでしか学べない経験が、確かに青年会にはあります。たかが青年会、という声も耳に致します。しかしどうでしょうか。青年会での様々

な実体験、同志たちと共に過ごした時間は、卒会してからも強い繋がりとなり、神明奉仕に限らず人生の大きな支えとなるのではないのでしょうか。当会にとどまらず近畿地区連絡協議会、神道青年全国協議会へと更に活動の場を広げ、同じ時代を歩む「仲間」との繋がりが、広い視野での活動が、各会員のかけがえのない自信となることを願うばかりです。

「古き伝統を守り受け継ぎ、と同時に新しきを求め作っていくという気風はさすがに京都だ」。野坂元臣第十一代会長が言葉に表された通り、諸先輩方が積み上げてこられたこの伝統こそが京都府神道青年会の誇りであり、それこそが当会の在り方であると思います。

記念の年に巡り合わせていただいた御神慮はもとより、お支えくださった全ての皆様に改めて深く感謝申し上げ、会員各位におかれましては、御神意に適う為、斯界の為、奉務神社の為、そして何よりも自分自身の為、これからも伝統を守りつつ未来を見据えた活動と事業を展開されますことを念願し、退任の挨拶とさせていただきます。



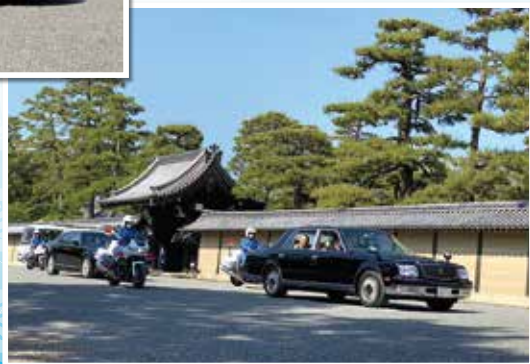
上皇上皇后両陛下御入洛



上皇上皇后両陛下におかれましては、令和五年五月十四日から十六日、並びに十八日に、御入洛遊ばされました。この度の御入洛は令和元年六月以来約四年ぶりの地方行幸啓になりました。十五日午前は、御覧予定であった「葵祭」が雨天順延の為、京都大宮御所で過ごすごしになり、午後は尼門跡寺院・大聖寺を御訪問になりました。

御入洛にあたり、府民挙げて共々に賑々しく真心を込めてお迎え致すべく、京都駅及び大宮御所にて国旗小旗を打ち振る御奉送迎団が京都府神社庁により結成され、我々京都府神道青年会では御奉送迎団の一員として各日共お立ち寄りにられる市内各所を分担して国旗小旗を頒布し、御奉送迎もご奉仕させて頂きました。

(平安神宮 久野 孝弘)



歴代会長会

令和五年二月七日リーガロイヤルホテル京都「ルシィヌの間」に於いて京都府神道青年会歴代会長会が開催された。

本来であれば昨年の京都府神道青年会創立七十周年記念式典の前日に開催すべきであったが、長引くコロナ禍の影響を受け、一年越しの開催となった。

当日は第十六代会長 中田幹男先輩をはじめ十三名に出席頂いた。開会にあたり、第三十七代会長 現監事 生寫紀之より開会の辞が述べられ、第三十八代 現会長 北川真喜子より本会開催の挨拶並びに現執行部の紹介がなされた。引き続き創立七十周年記念事業実行委員長 田中 博志より周年事業の報告がなされ、集合写真の撮影が行われた。

その後、第二十四代会長 二宮正幸先輩の乾杯にて歓談となった。

コロナ禍で当会も宴会の中止が続いており久々の食事であったが、お酒の力も借りつつ、和気藹々と先輩方の役員時代の体験談や苦勞話を拝聴する貴重な時間を過ごすことができた。山紫水明をはじめとする当会諸活動は、先輩方から引き継がれた歴史あるもので、活動ひとつひとつに思いが込められており、先輩方は諸活動をつい最近のことのように思い出



しながら我々に話してくださった。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、閉会の時間となり、現副会長 有島昌延より感謝の気持ちを込めた閉会の辞が述べられ、四年後の歴代会長会の約束を交わし、一本締めにて名残惜しくも閉会となった。歴代会長先輩の経験は、その時間を経たからこそその苦勞やそれ以上のやりがい、喜びをひしひしと感じることができ、この会を通じて京都府神道青年会の益々の発展にむけて、我々も次世代へ引き継いでいくという気持ちを再認識させられた。

(伏見稻荷大社 畑中 秀皓)



後列右四人目より

第三十七代 生寫 紀之 (現監事)
第三十四代 岩田 康彦 先輩
第三十一代 本郷 貴弘 先輩
第三十二代 稲本 高統 先輩
第三十六代 六人部 是充 先輩
第三十八代 北川 真喜子 現会長

前列右より

第二十九代 堀川 宏史 先輩
第二十八代 藤森 長正 先輩
第二十六代 梶 道嗣 先輩
第二十二代 林 秀俊 先輩
第十六代 中田 幹男 先輩
第二十代 澤井 隆男 先輩
第二十三代 二宮 正幸 先輩
第二十七代 飯田 延生 先輩
第三十代 中野 忠雄 先輩

*第二十代 澤井 隆男 先輩には令和五年四月十二日に
帰幽されました。茲に謹んで哀悼の意を表します。

特別講演会・臨時総会・新年会

令和五年二月八日、ホテルグランヴィア京都に於いて表題の通りの事業が開催された。

先ず特別講演会について、本来は各委員会の事業として開催すべき研修会を、今期は当会七十周年期に加え、近畿地区当番府県であること、更にコロナ禍であったことから役員執行部会に於いて今期は「特別講演会」という名目に変更し、六委員長協力のもと開催することとなった。

講演講師選定については、石清水八幡宮 宮司 田中恆清様、神道扶桑教 管長 穴野史生様のお力添えをいただき、アルピニスト野口健先生に依頼することとなった。



なるべく多くの会員に集まっていたく、臨時総会、新年会と同日に日程を定めた。また、新年会には例年OB先輩方、協賛業者の皆様にもご出席をいただいております。特別講演会にも参加していただけるよう案内をした。

当日は、会員五十三名、OB先輩五名、協賛業者六名、京都府氏子青年連合会一名の合計六十五名の参加のもと特別講演会が始まった。

「目標をもつて生きることのすばらしさ」をモチベーションを持ち続けるために「エベレスト登頂の話をはじめとした登山経験、



生い立ち、富士山の清掃活動や地震の支援活動など、様々な経験をともに講演をいただいた。

エベレスト登頂は特に我々一般の者には経験できないことであり、目標を持つことの大切さや、死に直面するような過酷な状況の中、どのような心でそれに立ち向かうのかなど想像を絶する大変貴重な話をお伺いする中で、生きることの意味や我々の使命というものについて改めて考えさせられる内容であった。

また、講師は東日本大震災や熊本地震をはじめとする災害支援活動を活発にされており、先般起こったトルコ地震の被災地にシユラフを送る呼びかけをされていた。

特別講演会の参加者の中には、登山を趣味にする会員やこの講演会を楽しみにしていたという会員がおり、講演後には「野口先生のお話を聞けて良かった。」という会員の声も多くあり、参加者ひとりひとりの心に響き、大きな糧となったことと確信し、開催には大変意義があったと感じた。

引き続き同会場に於いて臨時総会が執り行われ、北川会長より福本翔一郎会員（八坂神社）が議長に指名され議事が進められた。「第一号議案 次期会長選出に関する件」では進藤大長会員（大石神社）、「第二号議案 次期監事選出の件」では北川真喜子現会長（御嶽教末廣教会）、有持圭祐現副会長（長岡天満宮）が候補者として上程され、満場一致で承認された。次期会長の挨拶の中には、「今後コロナ禍が収まり任期の間には会員が集まる場を多く設け、親睦を図る場を作っていきたい。」という意気込みが語られた。

臨時総会終了後、会場を移し多数のご来賓のもと新年会が開催された。臨時総会にて決議された次期会長、次期監事二名が紹介され就任の挨拶が述べられた。

コロナ禍で懇親会が自粛されてきた状況であったが、三年ぶりに新年会が開催されOB先輩や協賛業者の方々と懇親を深め和やかに祝宴は進んだ。中盤には親睦委員会によるサイコロを使った余興が行われ、豪華景品が振る舞われた。会場は大いに盛り上がった。最後に久野博先輩による万歳三唱を以て閉会となった。

(石清水八幡宮 林 秀明)



委員会報告

事業委員会

令和五年カレンダー発送作業



事業委員会では、令和四年十一月九日、伏見稲荷大社に於いて、令和五年カレンダーの発送作業を執り行った。このカレンダーは、毎年多くの注文を頂き、各所に掲示いただいて日常に華を添えるべく、会員、OB会員をはじめとして、協賛業者、府内の各神社様にお届けしている。

当会のカレンダーは、京都府内各神社の祭典日を掲載し神道教化・敬神の念を培うものである。加えて年毎に日本の伝統文化に基づいたテーマを設定し掲載することによって、日本国民としての自覚を養うとともに、我が国の美風を再認識する一助でありたいと考える。

令和五年のテーマは「有職紋様」とした。「有職」についてはいわずもがな、それら決まりごとに従ってあらゆる装束や調度品の装飾に使われてきた「有職紋様」。神職としては日常、当たり前のように見ている紋様だが、それぞれに意味があり、理由があり、歴史がある。

種類ごとに説明書きを載せ、又実例として、協賛業者である(株)黒田装束店ご協力のもと、実際に紋様が使用されている装束等を載せることで、よ

りわかりやすくその紋様が持つ意味や、理由がわかるようにした。表紙に載せた「ありたき事は、(中略)人の鏡ならんこそいみじかるべけれ」とは、徒然草の一説で、有職(儀式や儀礼)に通じ、人の鏡となることこそ素晴らしい。というもの。このカレンダーを通して、有職紋様の成り立ちを知り、過去から今へと繋がる、有職の歴史を感じてもらえればと思う。



(伏見稲荷大社 廣達哉)

教化委員会

七五三の集い

去る、令和四年十一月九日、城南宮に於いて教化委員会主催の「七五三の集い」が開催された。



コロナ禍で一昨年、昨年と中止になり今年も開催するかどうかの瀬戸際だったが、城南宮の皆様と施設の方々のご理解とご協力により三年ぶりに開催することができた。当日は市内にある二ヶ所の施設から計十一名の子供たちが集まった。



なつた七五三の集い。

やはり実際に神社にお参りし、レクレーションなどで子供が楽しんでる姿を見るとこれが神社のあるべき姿だなと感じた。

これを機に子供たちが神社に対して親しみを感じて頂ければ幸いである。

(北野天満宮 湯浅 和雅)



湯浅教化委員長の挨拶から始まり、御本殿が御祈禱中という事でまず城南宮山下会員による神苑の案内から始まる。その後御本殿にて七五三の御祈禱が執り行われ、緊張と好奇心の入り混じった面持ちで御祈禱を受ける子供たちの姿は微笑ましかった。参拝後記念写真撮影を行い、ダイドードリンコが提供するジュースを配り休憩。

その後恒例の田中監事によるジャグリングが始まり、子供たちの声援が響き、技が決まる度に周囲からは驚きと喜びの声が上がり、盛況であった。

コロナ禍の影響で二年ぶりの開催と

渉外委員会

ヤチマタ募金活動

二月三日、節分祭で賑わう吉田神社の境内に於いて、交通安全推進運動であるヤチマタ募金活動が行われました。

京都府民はもとより全国的にも有名な吉田神社の節分祭には毎年多くの参拝者がお越しになられます。福豆をお受けになる方々の列の邪魔にならないように、本年は総勢十四名という大人数での活動でありました。近年は感染症蔓延対策ということで人員を削減して開催していたので久しぶりの募金活動という会員もあり、マスク越しではありますが熱のこもった声が響いておりました。夕暮れから約二時間の活動は夜の冷え込みと社務の疲れが重なり心身ともに少し体に堪えたものの、一四、九九七円という温かいお気持ちを頂戴することができ会員一同達成感で満たされておりました。

今後もこのヤチマタ募金活動を京都府神社庁と共催にて積極的に活動を継続していきますので、会員の皆様方のご協力の程、よろしく願い申し上げます。

(平安神宮 室川 豊史)

*二月二十五日に北野天満宮に於いて活動を予定しておりましたが、ヤチマタ募金活動は、京都府下を襲った大雪のため中止いたしました。

渉外委員会

チャリティバザー



令和五年五月二十五日、御縁日で賑わう北野天満宮絵馬所に於いてチャリティバザーが開催された。当日は北川会長をはじめ会員十五名が集まり活動を行った。

天候に恵まれ、バザーには大勢の方に訪れていただいた。実に四年ぶりとなる開催で、中にはコロナ禍前には毎年訪れていたのが今回心待ちにしていたという声も聞かれた。

参加会員は来訪者と其々会話をし、和やかな雰囲気を感じられた。普段我々はこのように「商品を販売することには慣れていないのであるが、値段の交渉に応じ、商品の説明をして会話を楽しむ場面も見ることができた。

会話の中には、この活動の主旨である京都府下の交通安全推進の為にバザーの収益を寄付させていただくということを説明している会員も見られた。参加会員の手によりバザーの商品は徐々に少なくなり、終了時刻を迎えた。今回は三八三、三二六円の収益金を集めることができた。活動が終えられた。

偏に北野天満宮をはじめとするご協賛いただいた関係神社、関係業者、様々な方のご協力によるものであると身に染みて感



じられた。

私自身、協賛品の受領に各社を回らせたとき、直接宮司様や職員の方々とお会いする機会が得られたことは意義のあることで、多くの方々に当会が支えられているという事を実感することができた。

今回の収益金が交通安全推進事業に充てられ、一つでも多くの交通事故が無くなることを祈り、今後もこの活動が続けたいと強く思った。

(石清水八幡宮 林 秀明)

親睦委員会

親睦ボウリング大会



令和五年五月二十三日、ラウンドワン京都河原町店にて、恒例の親睦委員会主催ボウリング大会が行われた。今年は新型コロナウイルス感染症の規制が緩和されたこともあり、巫女や会員の家族も参加し、大勢での開催であった。北川会長のウサギの被り物をしたまま投球するユニークな始球式を皮切りに、熱気に包まれた中、ゲームは進行していった。

二ゲームを終えた一同は、懇親会場「アサヒビアレ스토랑スーパードライ京都」へと移動。北川会長挨拶の後、畑中副会長の乾杯にて懇親会が始まり、和気藹々とした雰囲気の中、更に親睦を深める事ができた。

表彰式では女子の部では石清水八幡宮 君和 万優可さん 男子の部では城南宮 山下 博士くんが一位に輝いた。三言挨拶を求められると、山下会員は、

組織・親睦委員会合同

OB 懇親会

去る令和五年三月十三日(月)、「がんこ三条本店」にて四年振りとなる組織委員・親睦委員共同主催OB懇親会が開催された。本年はOB先輩四名、現会員十八名の総勢二十二名と新型コロナウイルスの影響もあり、



城南宮へ優勝トロフィーを持ち帰るといふ、長年の悲願を達成することができた喜びを熱く語ると共に、翌年も優勝トロフィーを持ち帰る固い決意を述べた。

最後に有持副会長による閉会の挨拶をもって、終始和やかな雰囲気の中、今年のボウリング大会も無事にお開きとなった。

(八坂神社 中村 隆人)

参加人数は例年に比べると少し寂しさを感じた。懇親会には、有島副会長による開会の辞に始まり、北川会長挨拶、首途八幡宮 梶道嗣先輩より一言ご挨拶を頂戴した後、OB先輩御紹介と続き、藤森神社 藤森長正先輩による乾杯の一声より開始した。

実に四年振りとなる懇親会は、OB先輩方と久方ぶりのお酒の場はとても賑やかで、皆笑顔が絶えなかった。

食事が進み、お酒も程々に頂いたところで親睦委員による余興「簡単麻雀」が始まった。OB

先輩四名に対し、会員は事前に選出された四名の対一の勝負となった。麻雀を知らない人にも分かりやすく、簡易化されたルールにOB諸先輩も会員も楽しく熱くなる良い余興となり、ますますの盛り上がりを見せた。閉会に際し、栗田神社 佐々貴敏道先輩より万歳三唱を頂き、有持副会長による閉会の辞で名残惜しくもOB懇親会はお開きとなった。

来年度は新型コロナウイルス鎮静化による、例年通りかそれ以上の賑やかなる会となることを願うばかりである。

(松尾大社 阿部 昂司)



近畿地区報告

第二十八回全国戦歿学徒追悼祭

去る令和四年十月二十一日、南あわじ市阿万大見山「若人の広場公園」にて、第二十八回全国戦歿学徒追悼祭が斎行されました。

追悼祭は、神道青年近畿地区連絡協議会 西田周司会長をはじめ、各県の会員が祭典奉仕、約二百名ほどのご参列のもと厳粛に執り行われました。

この全国戦歿学徒追悼祭は昭和十八年、明治神宮外苑で行われました「出陣学徒壮行会」の日に合わせ毎年行われております。



秋風が吹く中、斎主であります西田会長の祭詞奏上に続き、巫女による神楽奉奏、般若心経の読経、賛美歌奉唱など、宗教の垣根を越えての追悼祭はまさにこの日本国の国柄を表すかのような素晴らしい時間でありました。

若くして戦場に赴かれた学徒の英霊に慰霊の誠を捧げていく事も青年神職としての務めであると感じております。どうか一人でも多くの会員が参列出来ますよう切に願います。

(御嶽教末廣教会 北川 真喜子)

臨時総会並びに第二回連絡会

令和四年十二月五日、帝國ホテル大阪に於いて、神道青年会近畿地区連絡協議会臨時総会並びに第二回連絡会が開催され、当会より北川会長を始め七名の会員が参加した。

先ず本会に先立ち研修会が行われ、枚岡神社宮司中東弘様を講師に迎え、「笑えば心の岩戸が開かれる」―天の岩戸開きと祭祀―を演題としてご講演いただいた。「笑い」にはどのような効果があるのかを中心にお話をいただいた。講演の最後には、枚岡神社で実際に行われている『お笑い神事』に参加者全員で行った。

研修会の後、臨時総会並びに第二回連絡会が開催された。

野上副会長の開会の辞に続き、西田会長、当番府県の大阪府神道青年会吉沢会長がそれぞれ挨拶を述べた。

来賓紹介の後、御来賓を代表して大阪府神社庁庁長代理津守康有様、

神道青年近畿地区連絡協議会参与菅尾龍太様よりご祝辞を賜った。

次に大阪府神道青年会吉沢会長

が議長に選出され議事へと移った。

次期会長選出に関する件、次期監事選出に関する件において、次期会長に滋賀県神道青年会 野上浩司現副会長、次期監事に和歌山県



神道青年会 井戸大輔理事、兵庫県神道青年会 千種太陽理事が上程され全会一致で選出された。続いて、中央報告、神青協特別委員会報告、各単位会活動報告が行われた。

そして、上野相談役先導による聖寿万歳、阪井副会長の閉会の辞をもって本会は閉会した。

引き続き懇親会が行われ、参加者一同和やかな雰囲気の中懇親を深め散会となった。

(八坂神社 中村 隆人)



近畿地区連絡協議会第三回連絡会

並びに地区研修会

去る、令和五年二月二十七日(月)に大阪府神道青年会の担当にて第三回連絡会がホテル日航大阪に於いて開催された。当会からは六名の会員が出席した。午後四時より研修会では、大阪万博が令和七年四月より開幕するにあたり、講師に京都大学大学院教育学研究科教授 佐野 真由子先生を迎え「万国博覧会の歴史と日本」初参加、初開催、そして「」との演題にて講演を頂いた。次に連絡会が開催され阪井副会長による開会の辞、神宮遙拝、国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和に続き近畿地区連絡協議会西田会長より挨拶、来賓紹介、来賓挨拶、中央報告、特別委員会報告近畿地区事業委員会報告、各単位会報告が行われた。そして上野相談役の聖寿万歳

のち野上副会長の閉会の辞にて連絡会は閉会となり、その後懇親会が開催された。

翌二十八日(火)地区研修会が開催された。会場は万博記念公園で再び公開されている太陽の塔、EXPO'70パビリオンの見学、昼食後国立民族博物館にて学芸員によるワークショップ、資料室の説明を受け、館内の自由散策後解散となった。この研修会を通して改めて万国博覧会開催の意義と、当時の人の熱気を知り、二年後の大阪万博には是非とも足を運びたいと感じた。

(賀茂別雷神社 有島 昌延)



中央報告

沖縄戦全戦歿者慰霊祭

令和四年十月二十七日(木)神道青年全国協議会主催による「沖縄本土復興五十周年記念事業 沖縄戦全戦歿者慰霊祭」が沖縄県護国神社にて斎行された。

加地順人宮司が斎主として、神道青年全国協議会小林慶直会長他役員、全国単位会より約五十名が奉仕。当日は晴天のもと「黙祷、国歌斉唱、修祓、宮司一拝、献饌、宮司祭詞奏上、神青協幣帛供進、神青協会長祭詞奏上、浦安の舞奉奏、海ゆかば斉唱、玉串拝礼、撤饌、宮司一拝」の次第で執り行われ、沖縄県下の同志他全国から約五十名に参列いただいた。



中央研修



神道青年全国協議会では昭和三十三年より沖縄本土復帰運動に積極的に取り組まれており、本土復帰五十周年の節目。全国各地の青年神職と共に得難い経験ができたこと感謝申し上げる。

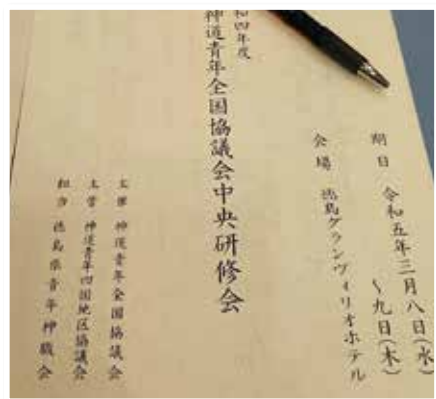
(八坂神社 東條 貴史)

『想ひ』を繋ぐ〜受け継がれしものを次の世代へ〜と題し、令和五年三月八日、九日の両日に渡り徳島市の徳島グランヴィリオホテルにて四年ぶりに直接参集しての中央研修会が開催され、会員約二百四十名が参加した(京都からは北川会長、生島監事の二名)。第一講において、安藤桃子先生より高知県での活動をご講話頂いたが、先生の様々な活動の一つに子供達と共に絵馬を奉製し、そこに願いを書き入れ、神社に奉納し、祭礼を修めるという活動があり、先生は



していかねばならないのではと、思いを新たにした講義であった。今回の講義全体を通して『想ひ』を繋ぐにはどのように行動していけば良いか各先生方それぞれの立場で講義を賜ったが共通して言える事は如何にその活動、また物(モノ)に『魅力』を見出す事が出来るかという事であり、それを引き出すには『活動・物(モノ)』という外枠だけを捉えるのではなく、そこに携わる(関わる)人と人との関係(ふれあい)といった『心』の部分を大切にすることが肝要なのではないかという事である。時代と共に『形』は変われど、受け継いできた『活動・物(モノ)』の本質を見抜き、人と人とのふれあいを大事にする事が出来れば『想ひ』は繋がり受け継いでいけるのではと希望を見出す事が出来た講義であった。研修会の初日終了後は懇親会も開催。阿波踊りも披露される賑わいの中、会員皆の声高らかに笑う姿が見られ、踊り手に合わせて踊る姿も見られた。全国としては四年ぶりとなる懇親会は盛況の内に納められた。

来年三月七日・八日の両日に北海道の地にて中央研修会は開催される。



その活動の意義を会員にご教示して下さった。「絵馬」というものは「願い」を書くものであり「願い」は「祈り」に繋がり「祈り」は人の為に願う祈りもありそれは優しい心を持つ事に繋がる・・・と。昨今、自分さえ良ければという「利己主義」が蔓延しているように思われる。今一度このような活動を通して「利他主義」に繋がる(人の為に願える)優しい心」を育める地域を再構築

このような開催地の文化を直接見聞する事が出来、また全国の会員が一同に会し交流が出来る中央研修会は貴重な機会である。会員には是非とも参加して頂き研鑽を積むと共に会員同志の親交を深めて頂ければ幸いである。

(大將軍八神社 生鳥 紀之)

神道青年全国協議会 第七十四回定例総会

去る令和五年四月二十七日神社本庁大講堂にて神道青年全国協議会第七十四回定例総会が開催され、上程された全議案が承認されました。

僭越ながら令和四年度決算書の件、令和五年度予算書(案)の件として上程された出向費に関して質問させていただきました。コロナ禍が収まりますます活動が活発になる中、出向費が必要になるのではないかと、この質問に対し来年度以降検討するとの回答がありました。日本全国津々浦々活動される各役員に関してますます負担がかかるのではないかと感じ予算の増減のきつかけにないかと思います。

神青協の役員・代議員が参集し定例総会が開催されるのは三年ぶりとなり、当会からは代議員として会長を含む三名が出席し、近畿はもとより他県の旧知の方と久しぶりに顔を合わせて交流を深める良い機会となりました。

定例総会后、役員と各府県の会長は明治神宮の大前にて新役員就任の正式参拝を行いました。

明治神宮の参道を皆が無意識に足を合わせ参進する姿はこれからの神明奉仕を支える青年会にふさわしいものと感じました。

(大石神社 進藤 大長)



編集後記

この『山紫水明』一四五号を以て現委員会での発行は最後となりました。これまで『山紫水明』発行に際しまして、ご協力いただきました皆様に御礼申し上げますとともに、計画通りの発行が適わず、時期が遅れての発行が多くなってしまったことをお詫び申し上げます。

次号より新体制での発行となります。この『山紫水明』の発行には広報委員だけでなく会員皆様のご協力が必要となります。ぜひ今後ともこの会報発行にお力添えいただきますれば幸いに存じます。

二年間ありがとうございました。

(広報委員会)

『山紫水明』第一四五号

題字 頼新先生
編集 広報委員会

発行所
発行日 印刷

京都府神道青年会
令和五年六月三十日
株式会社ユニティー